

# 民報 あばしり

NO. 981

2014/8/10

発行所

日本共産党  
網走市委員会  
網走市北八西三  
四三二一四四五八  
F 四三二一四四五七



## 戦争する国づくりは

## 許さない!

### 「宣伝活動

### 「これからも続けます」



会の代表世話人の斉藤道子さんは、「集団的自衛権行使容認の閣議決定後、高校前での宣伝に続く3回目の宣伝行動になります。今回は会員14名の参加で50筆の署名とパンフレット100部を配布することができました。車中の市民にも憲法九条を守る、戦争する国づくりに反対する運動がある事を知らせることが出来たと思います。九条の会が全国的な共同行動を呼びかけています。私たちも連帯しながら、これからも宣伝行動を続けていきたいと思えます」と話していました。

7月3日、九条の会と連帯して活動する『平和憲法を守る網走の会』は、「戦争する国」づくりに暴走し、憲法九条を改変しようとすることは許されない、「子供が戦場へ行くことの無いように署名にご協力ください」と吹き出る汗をぬぐいながら訴えています。

弁士を交代しながら宣伝カーから訴え、手作りのプラスターやのぼり旗を使いながら、約1時間の活動を行いました。



「網走市内を回っています。応援よろしくお願いします。」

## 安倍政権の暴走は、社会

保障分野でも際だっています。6月の国会で改悪した医療・介護総合法での指針案(ガイドライン)が示されました。網走市でも介護サービスを受けている高齢者の3割以上を占めている要支援者サービスを保険給付から外し、市が実施の「総合事業」なる安上がり体制に移行です。また特養ホームからしめ出しに特例入所を狭い要件で追い出しを図り、利用料2割負担をまともな論拠も示さず、共産党の小池参院議員が指摘した試算の不備もどこ吹く風で、当初の案を押し通す構えです。悪政の防波堤第1弾として、8月から再開される市の策定委員会での指針案を受けての議論が待たれます。

## 菊地ひろし

「集団的自衛権行使」反対の署名活動で、あるお宅へ伺った時に「うちの子供が、戦争になるの?と云って、おびえている」と、話してくれたお母さんがいました。

8月3日に「平和憲法を守る網走の会」が行なった署名行動に、同会の世話人のひとりとして私もマイクを握り訴えました。

「過去の経験でも国民が気づいた時には、すでに戦争に巻き込まれていました。最近の『道新』の世論調査でも8割の人が不安を感じています。網走の若者や子供たちが戦場へ行くことのないように、今こそ力を合わせるべきではないでしょうか。」

## 松浦春戦モ?

8月は、平和について考える月だと思えます。毎年、テレビや新聞などでも特集が組まれたりしますが、改めて戦争と平和について真剣に考えることが求められていると思います。

8月6日に広島に、9日は長崎に原爆が投下されました。一瞬にして広島で12万人、長崎で7万人の尊い命が奪われ、助かった人たちも原爆症に苦しみ、病気が早く終わったのだ」といっています。そんな言い訳が通るはずがありません。残酷な核兵器は一日も早くなくし、平和な世界をつくりましょう。

## 流水

「伊波インタビュー」網走母親大会で上映▼「アメリカは中国との戦争を想定し訓練を重ねている。何かあれば米軍基地のある沖縄はすぐたたかれる」。一枚の地図を示して語るのは元宜野湾市長、伊波洋一氏。▼ラインで囲まれた中に日本列島がすっぽりと入り「戦場地域」とある。もうひとつのラインで囲まれた沖縄本島をふくむ西南諸島は「破壊地域」▼「これは中国包囲網。アメリカが作ったシナリオと地図。日本列島が戦場になる」と。日本列島を最前線とする戦争を想定し日米合同訓練が繰り返され「毎日ニュースが地元新聞に載る。グアム移転は日本のためではない。中国有事でたたかれたら沖縄が機能しなくなる。だからグアム、オーストラリアなどに分散する。中国が力をつけたら嘉手納、普天間では足りない。だから辺野古。アメリカは軍需産業の国。10年に一度戦争しないと出来ない国」「中国の艦隊が南西諸島を抜けて外海に出るのを阻止する。そのための集団的自衛権。遠い先の話ではない」と▼伊波さんの最新DVDや、さらに沖縄を長年撮り続ける藤本・影山両監督の映画をどうしてもたくさんの人に観てほしいと企画してやっと実現した上映会、8/24(日)「ワンショット・ワンキル」▼さらに、それだけでは足りないとして8/30(土)には午前午後夕方方の3回に分けていくつかの作品を一挙上映する企画。ぜひ足を運んでほしい。▼「沖縄県民が辺野古の基地建設を阻止しているのは戦争を止めている、ということ」という伊波氏の言葉は重い(た)